武蔵野美術大学　建築学科
学科紹介2018

Musashino Art University
Department of Architecture

建築ってなんだろう？

居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市 ... という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。
建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

ムサビ建築学科

住宅から都市、アートまで
人の営みを建築の視点から考えます

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特徴を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎を学び、工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を統合するものとして建築デザインを学びます。多様なスタジオでは建築、インテリア、ランドスケープそしてアートまで、興味を深めることができます。

建築学科で学べる領域

私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではありません。人がその一生をかけて体験するすべての環境が、学びの対象になります。
■建築デザイン ■インテリアデザイン ■空間デザイン
■ランドスケープデザイン ■環境造形 ■建築理論
■ワークショップ ■コミュニティデザイン
■住宅設計 ■インスタレーション ■環境計画 ■都市デザイン

カリキュラムの特徴

「設計計画」を軸に４年間学びます

教育の大きな軸は、４年間必修の「設計計画」。
「計画 =planning」と「設計 =design」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

スタジオ制

３・４年次の学びは個性を伸ばし
自分の関心と興味を深めます

３年次以降の設計演習 (設計計画 Ⅲ･Ⅳ) とゼミ (卒業論文･卒業制作指導) は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。４年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。

1 年次

造形の各分野を広く学ぶ

1

1 年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザインに触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1 年次から自由に選択できます。建築学科が開設する科目では前期には建築設計基礎、図学、建築設計表現により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期からは、4 年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習) が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインなど工学的内容の授業も 1 年次から始まります。工学部建築学科のカリキュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1 年を通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。
前期・後期の終わりには、外部講評者を招いて 1 年次から 4 年次までの優秀作品を一堂に会して発表・講評するバーティカルレビューを開いています。1 年生にとってはこれから 4 年間建築デザインを学んでいく流れを知るまたとない機会となります。

演習系科目
造形総合・彫刻
造形総合・絵画
建築設計基礎
図学
建築設計表現
設計計画 I -1
設計計画 I -2

講義系科目
[建築の計画・技術を学ぶ]
構造デザイン
構造力学基礎
基礎数学

2 年次

専門に向けて基礎を学ぶ

2

2 年次の建築設計演習「設計計画 II」では、住宅や公共的な機能をもつ建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多面的に深く考えることを目指します。2 年間で建築デザインの基礎、表現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。 講義科目では、多様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料、計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通して、ひとつの建築ができあがるまでに必要とされる知識をしっかりと学びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形という視点が重要であると考え、2 年次から環境計画 (Environment Planning) や基礎造形など学科独自の講義が始まります。

演習系科目
設計計画 II -1
設計計画 II -2

講義系科目
[建築の意匠・理論を学ぶ]
文化総合・日本建築史
文化総合・西洋建築史
文化総合・近代建築論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築計画 / 計画原論 / 建築構法
構造力学 / 建築材料学・実験 / 応用数学
[造形・環境を学ぶ]
Environment Planning / 基礎造形
造形演習 / 写真表現

3 年次

スタジオで深く学ぶ

3

3 年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマをもつ 8 スタジオ (前期 4 スタジオ・後期 4 スタジオ) から各期 1 スタジオずつを選択して学びます。分野としても建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインなど多岐にわたり、テーマの異なる 2 つのスタジオで学ぶことで、自分の関心のあるテーマを模索、発見し、個性を発揮していくチャンスとなります。
講義科目では 2 年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザイン、建築形態論など、領域を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することができます。

演習系科目
設計計画 III -1
設計計画 III -2

講義系科目
[建築の意匠・理論を学ぶ]
建築意匠 / 建築概論
建築形態論 / 建築デザイン論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築施工 / 建築法規
建築設備・実験
[造形・環境を学ぶ]
都市デザイン / 環境計画
ランドスケープデザイン概論

4 年次

スタジオから社会へ

4

4 年次には 1 年間を通して 1 つのスタジオに所属します。スタジオでの時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来への旅立ちの第一歩となります。「設計計画 IV」では空間やものづくりに関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレーションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来どのように建築と関わっていくかを考えます。
卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4 年間の集大成となる表現として卒業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会などの活動も行なっています。

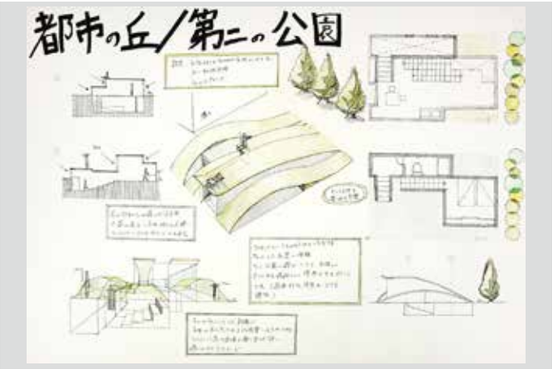
演習系科目
設計計画IV
卒業制作

講義系科目
[造形・環境を学ぶ]
ランドスケープデザイン近代史
庭園史

短期課題

200㎥の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自らのデザインで実践するためのものである。
敷地･条件等:敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。
住宅の規模は 200m³。平面・断面等の形状は自由に想定。
ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦とする。

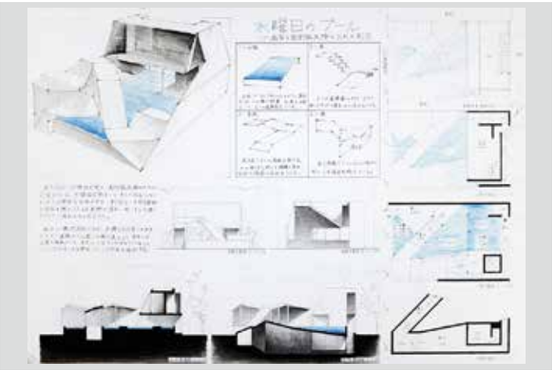


辻 可愛「都市の丘／第二の公園」図面

塩澤 芳樹「光の家」

藤田 耀平「庭を歩く家」

張 子悦「三次元の家」



大嶋 笙平「水曜日のプール - 画家と彫刻家夫婦のための別宅」図面

中川 拓海「近道」

境界の発見からつくる

境界はしばしば人の特徴的な振舞と結びついている。誰しもドアぎわ、縁側、交差点の角などで話し込んだ経験があるだろう。窓辺で本を読むのは明るさを確保するためだけだろうか。この課題では、キャンパス中に境界的な場所を見つけ、その特徴をくみ取り、角材（36×36×3600：30 本／チーム）を用いて、そこに境界的な意識や振舞をうながす構造体を、共同（5 ～ 6 人）で、設計・制作する。

石川 直実・佐橋 飄・藤田 耀平・岩野 衿花・武田 涼花「通る空間 溜まる空間」

境界の発見からつくる

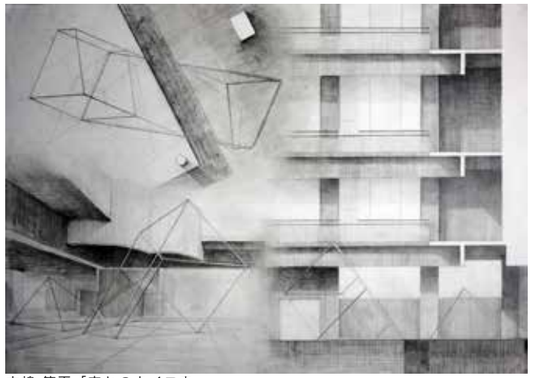
揚妻 潤・小島 百絵・長谷川 友里・大嶋 笙平・竹山 遼「空とのカイコウ」

大関 龍一・竹内 陽加・山﨑 まなは・勝岡 萌・中川 拓海・福田 響「向こう側との境界」

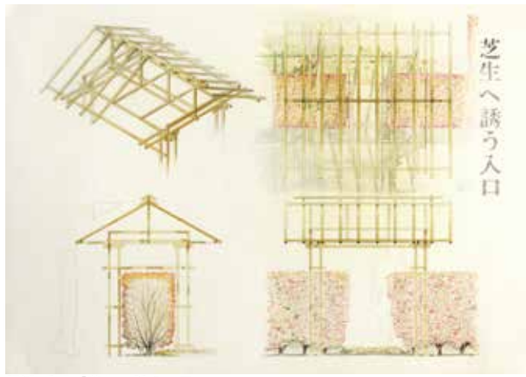
阿瀬 愛弓・スウ ジャクシン・山田 寛太・狩野 涼雅・中村 玲菜「芝生へ誘う入口」

境界の発見からつくる　ドローイング

設計計画Ⅰ－1で制作した作品を、その周辺とともに図面化する。
図面化にあたり、どの面を立面図とするか、どこを切断した断面図とするかを熟慮し、その表現を意識すること。


大嶋 笙平「空とのカイコウ」

大関 龍一「向こう側との境界」



阿瀬 愛弓「芝生へ誘う入口」

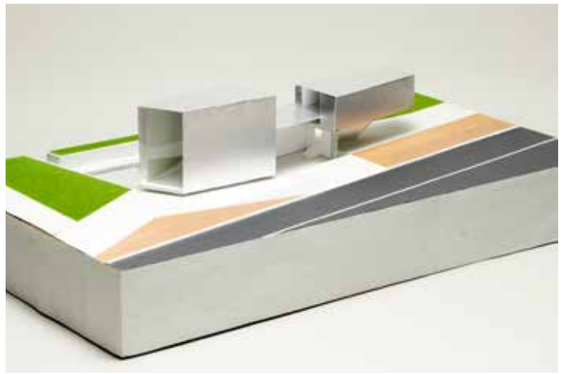
北キャンパスのパビリオン

北キャンパス敷地図の指定された範囲から、ひとまとまりの矩形の250㎡の敷地を各自設定し（階段部を含めるときはその面積も含めること）、そこに立体作品を展示するパビリオンを外部空間とともに計画、設計する。このパビリオンは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、道路を通学路に使う学童などが立ち寄る公園的性格を持つパビリオンとし、ワークショップの利用も行えるよう考慮する。パビリオンは少なくとも隣接する２つの展示室からなるものとし、展示室相互、展示室と外部の連続性、境界性などを考えて設計する。パビリオンの内部空間は125㎡内外とする。外部空間もあわせて設計すること。

阿瀬 愛弓「列す」

井上 唯「こどもたちのパビリオン」

近藤 明日香「壁のパビリオン」


大嶋 笙平「Don't Lead Me On」

武田 涼花「いつもどおり」

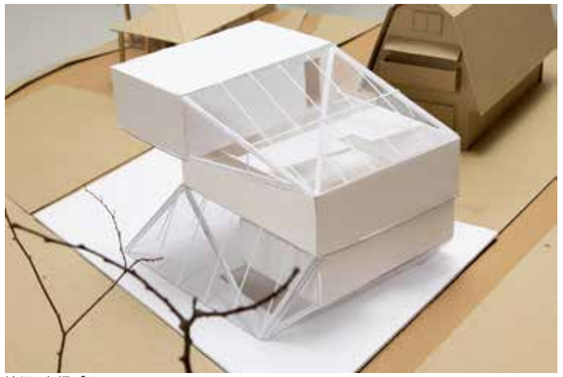
平 奇「シークエンス」

第一課題
玉川上水沿いに建つ住宅

玉川上水沿いに住宅を設計しなさい。
この住宅は、プライバシーを確保しつつ、玉川上水を通る人々へ何かしらのサービスを提供できる機能を併設すること。

家族構成 : 両親 + 子供二人 (小学生と中学生)
施主の希望 : 外での BBQ、家庭菜園
設計の留意点 : 上水沿いの景観、日射、季節、樹木、外からの視線対策など

矢舗 礼子「開く、閉じる。」


渡辺 大輝「Border」

池谷 麻里奈「トリミングの家」

第二課題
新たな世代のための宿泊研修施設

場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およびそれに付随する施設が設計された。近年老朽化を理由に一部が取り壊され、原設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大部分が姿を消し、他の設計者による新しい施設がつくられ、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっている。この施設では、さまざまなタイプの共同生活を想定した建物があり、それは、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し理解を深めることのできる空間となっている。 今回の課題は、指定された範囲内に下記に記された機能をもつ建物あるいは建物群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、自分の計画にあった敷地を想定し完成させてほしい。
機能 :1. 40 名が宿泊できること。2. 研究発表などができる集会室。3. 自炊設備、洗濯、共同の浴室。4. 屋外 BBQ スペース、それに必要な設備など。

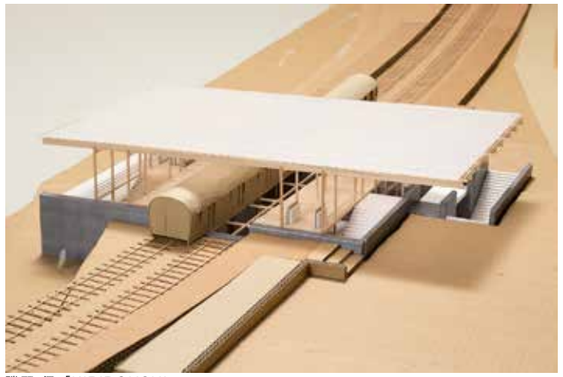
水野 幹大「対話の SYSTEM」

山下 千彩貴「八王子アートビレッジ」

中川 美奈「眺望館」

第一課題
木造の駅舎 木造軸組架構から考える

井の頭公園駅は吉祥寺駅からひとつめの、井の頭線内では最も乗降客が少ない駅である。井の頭公園が隣接し、周辺には閑静な住宅地が広がっている。
この場の雰囲気と調和した駅舎と駅前空間をデザインしなさい。構造形式は木造軸組で、基本平屋とする。
タイトル (テーマとなるキーワード) を決めること。


磯野 信「KIRIDOHSHI」

花田 ひなた「井の頭公園駅　動きに合わせて変化する空間」

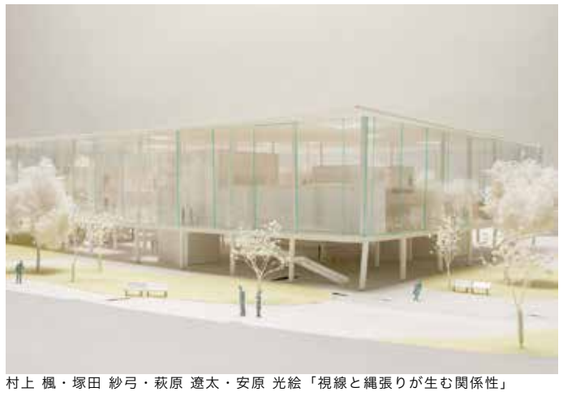
川村 恵美「めくれやねの駅舎」

第二課題
武蔵野美術大学建築学科棟

本学鷹の台キャンパスを貫通する小平 3･3･3 号線道路（幅員 28m ）が 1 年後に開通する。この道路と施工済みの地下連絡通路を前提に、対象敷地に建築学科が入る新棟を設計しなさい。
対象敷地においては 14 号館が今春から稼働を始めている。それが建築学科棟なら？と考えること。新棟には、これからの大学の「顔」をつくる、地域に大学をアピールする、道路で南北に分かれるキャンパス内動線を整理するなど、さまざまな水準の検討が求められる。タイトル (テーマとなるキーワード) を決めること。

磯野 信・水野 幹大・渡辺 大輝「Geo Strategy」

上田 怜子・矢舗 礼子・山田 真弓「であい、デアイ、出会い」

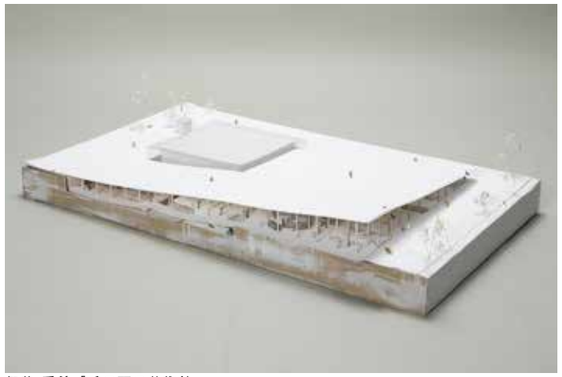

村上 楓・塚田 紗弓・萩原 遼太・安原 光絵「視線と縄張りが生む関係性」

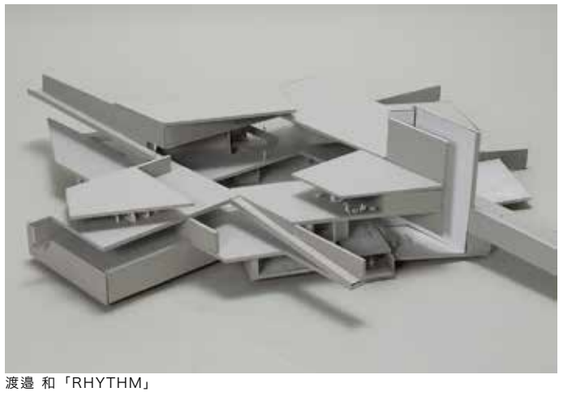
源スタジオ

建築のタッチ（筆致）

建築を語るとき、プログラム、空間、比例、動線、陰翳などなどの言葉が使われる。それぞれ、建築の一つの側面を語る言葉である。時代、社会状況に建築が呼応するために建築のある側面がその時代の建築的問題として大きな関心が払われることがある。しかしこれらは建築の側面であり、それが関心を集めない時代、状況にも存在している。時代、状況と建築の関係にこそ建築的問題はあるだろう。
この課題で取り上げる建築のタッチも、比喩的な表現に過ぎず建築を語る言葉として通用している言葉ではないが、この課題では建築の一つの側面として捉えようとしている。概念としていまだゆるく人により想像するその内容はまちまちで、その幅は相当に広いと思われる。そこで今回の課題では自身の考える建築的問題はなにか、それをタッチという側面から建築やその周辺環境を形にしてゆくとしたらどのように試みるかを考えること。第一・第二課題を通して、くにたち美術館の計画、設計を行う。

重名 秀則「記憶の重層」


伊藤 愛希「丘の下の美術館」


渡邉 和「RHYTHM」

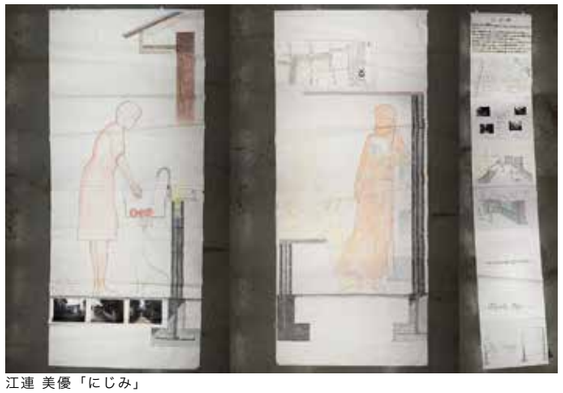
鈴木スタジオ

身の丈の家

台東区谷中は多くの寺社があり、戦災を逃れた家屋が残る、東京では数少ない情緒あるまちなみを持つ地域である。近年そのまちなみ保存のための運動も活発となり、空き家を利用したカフェやショップがオープンし、国内外から多くの人が訪れるようになった。一方で解体のされるおそれのある空き家・老朽化した建物を維持・保全していくことはまちの課題である。地域性・歴史的背景を踏まえながら、まちの人が利用し、まちとの関係を築けるような既存の建物の活用の仕方を提案し、その一部をどのように改修するかを身体のふるまい・ディテールまで設計してほしい。

北島 未来「竹のえき」

ワン イン「落ち着ける本屋」


江連 美優「にじみ」

高橋スタジオ

都市の環境単位ーつながる建築

時間を経て熟成した界隈性やコンテクストをもち、ひとつのまとまりある環境として認識できる拡がりを「都市の環境単位」とここで定義する。この界隈性を継承・再生・更新していくような建築（集合住宅を主用途とする。他機能の併設は自由）を対象地に設計する。
それが実現することで界隈性が強化され、場所のもつ可能性が浮上し街の一部になるような建築、プライベート空間の積層だけで完結するのではなく、パブリック / プライベートや内 / 外といった抽象的な対比関係を見直して周辺のインフラやアクティビティと有機的に繋がり、あらたな展開をその場に生じさせる建築を、構想・設計すること。

井出 彩乃「距離感の積層」

松田 聖人「青空の家」

齋藤 元希「透間」

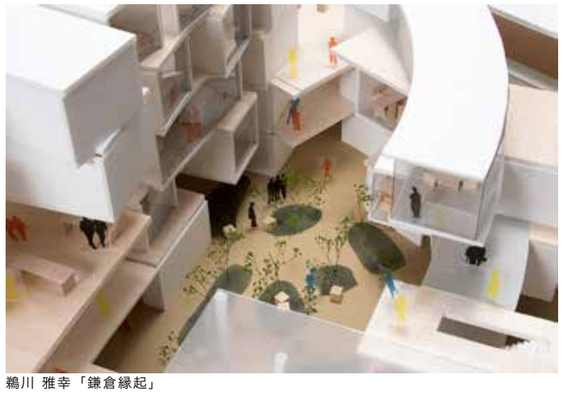
河野・原田スタジオ

鎌倉御成町プロジェクト - まちの結節点をつくる -

建築は“まち”において様々な活動を繋ぐ重要な要素のひとつである。その場所特有の様々な条件を結びつけながら、自由な発想で新たな可能性を引き出しなさい。
鎌倉駅から歩いてほど近い御成町のプロジェクトであり、敷地は３ブロックから成りたっている。
３ブロックの境界線には、鎌倉駅や鶴岡八幡宮と海とをつなぐ若宮大路がとおり、江ノ電やＪＲ横須賀線が走り、河川も流れている。鎌倉は古都としての街、山と海、住む人と訪れる人、歴史と未来…など多様な条件と可能性を備えた場所である。特に敷地周辺はまちに住む人と訪れる人の両者が多く交わる場所に位置する。
この両者のための用途となる建築を考え、まちの結節点となる場をつくることがこの課題のテーマである。

スティシャウェンクン タタラット「SQUEEZE」

藤本 凜「斜層の美術館」


鵜川 雅幸「鎌倉縁起」

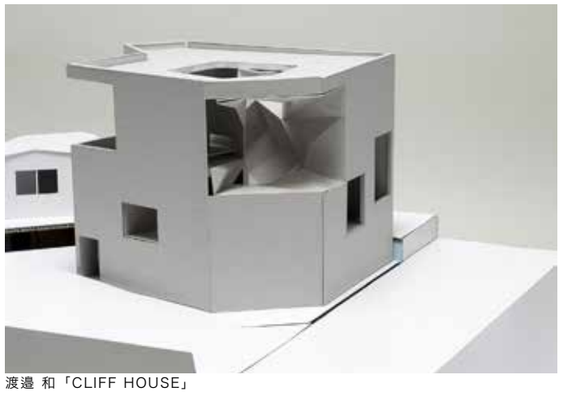
布施スタジオ

成城プロジェクト 住宅＋αの新しい可能性を提案する

世田谷区成城における住宅＋αのプロジェクトを企画、計画し、設計する課題。建築の設計は、敷地、クライアントの設計条件など様々な要素が設計の手がかりとなる。小田急線の成城学園前駅と喜多見駅のほぼ中間に位置する敷地は、野川に面し、対岸に公園が広がる眺望のよい地域である。この恵まれた周辺環境における住宅＋αの用途 (アトリエ、事務所、店舗、長屋、その他) を企画・計画すると同時に、建築的テーマを設定し、そのテーマに基づき、住宅＋αの用途を併設する事で出来る住宅の新しい可能性を提案すること。

七尾 陽子「川を望むいえ」

野口 新「"hana-sou"」


渡邉 和「CLIFF HOUSE」

菊地スタジオ

武甲山の見える高台に作る素敵な場所の提案

このプロジェクトは、横瀬町と武蔵野美術大学の官学協同プロジェクトとして発足した。場所は、横瀬町の東側に位置し、武甲山の望める山の支尾根に位置する。現在、仮) 花咲山公園として整備を進めているところである。春に花を咲かせる白い花 (ヤマボウシなど) を中心にところどころ藤などの花なども植えられる予定である。もちろん四季折々楽しめるようにそれ以外にも様々な花木が植えられる計画がされている。また、このプロジェクトを進める背景として羊山公園の芝桜で訪れた人々をこちらまで誘導して敷地近くにある棚田といった田園風景も楽しみながら花咲山まで歩いてきてもらい、一日横瀬で楽しんでもらいたいという意図もある。
この公園の中に作ったらさらに素敵な場所になるだろうと思われる場所やものを設計・提案すること。

佐藤 有里「こやこやま」

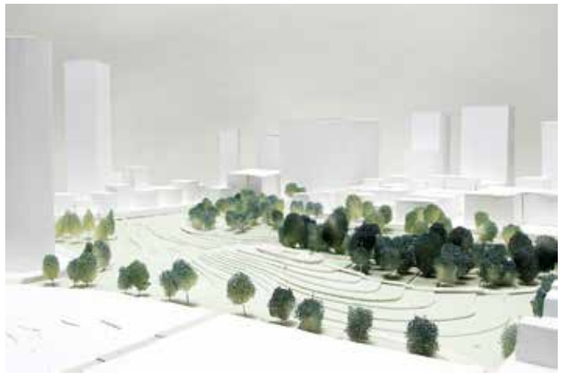
重名 秀則「贅沢な長椅子」

佐野 杏理「ドラマチックよこぜ」

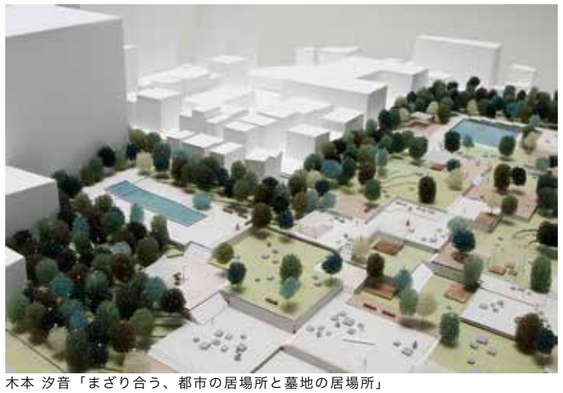
長谷川スタジオ

墓地を都市の居場所にする。

「墓地」という空間が都市の中で大きな面積を占めているが、もっと積極的に公共空間として捉え直しが出来ないか？という課題である。
この課題の仮説その１が「墓地は個人的な行為を越えた、共同体のための空間になり得るのではないか」。死者を祀るという行為は人類の特徴であり、歴史的文化的にも様々なバリエーションがある。都市においての墓地とはもっと集団のための共有空間であっても良いのではないだろうか。
仮説その２は「墓地というオープンスペースは広場 / 公園になり得るか」。墓地という空間の色を消して公園っぽく見せるのではなく、墓地だけがもてる空間の質をそのまま生かしてパブリックな居場所に変換することは可能だろうか。僕たちが日々回遊している都市空間はパブリックな空間に浸されている。そこにもう一つ墓地という空間が加わることで、都市空間はより多くの居方を提供できるのではないか。


池下 晴香「YAMANOTE」

北島 未来「青山もり霊園」


木本 汐音「まざり合う、都市の居場所と墓地の居場所」

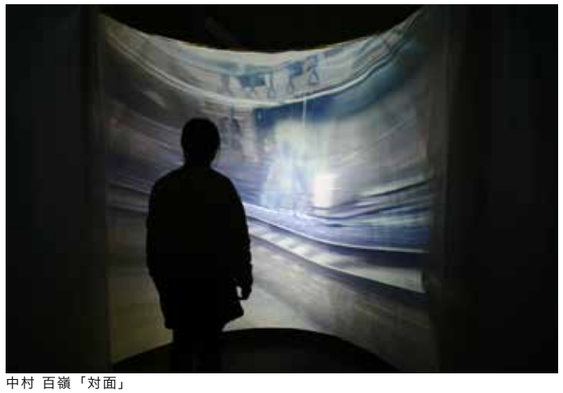
土屋スタジオ

東京散歩「場所のもつ記憶と力」

場についての考察。「場」とは、それぞれのメディアや関わり方によって多様な解釈を生むが、それぞれが独自のアプローチによって交差するところを「場」と捉え、そこから新たなる表現を創造する。大都市東京は他に類を見ないほど複雑で、流動的かつ個性的な都市である。この不思議な構造をもつ東京を、縄文地図を持ち、垂直的な時間軸と連続しながら散策・考察することで、見慣れたはずの東京の相貌が、また別な視点で捉えられるのではないか。我々の足元にはさまざまな神話的時間が流れている。遠い過去の記憶と現在を一つに結びつけることも創造的冒険である。

高田 雄大朗「かわったもの、かわらないもの、少しかわったもの」

小西 麻友「ガスタンク」


中村 百嶺「対面」

源スタジオ

Happy 8

「環境」とはどういったものだろうか？「環境」を英語にして言えば“environment”ですが両者とも意味としては広域である。「光」「温度」「湿度」「風」「音」「人」様々な要素が絡み合ったものが環境なのだ。建築とはなんだろうか？建築とは人などに対してある環境を提供するものであり、建築家たちは依頼主の要望に応えて、“いい環境”をデザインしていくのである。
新しいデザイン棟 (14 号館) は建築学科の学生は基本的に使用しない。そこで建築学科にも新しい場を仮想的に設計しなさい。既存の３階建ての８号館に仮想的に４階を設けるものとする。そして建築学科として３階と４階合わせて設計しなさい。現在の３階は南北に分かれているが、空気の流れなども乏しいのが現状である。３階に関しては既存を残すような設計方針でも全体を再構成する形でも構わない。今までの実体験などを思いだし、より“いい環境”の建築棟を設計すること。

根塚 優子「Light - Light」

駒﨑 裕太郎「Garden of school house」

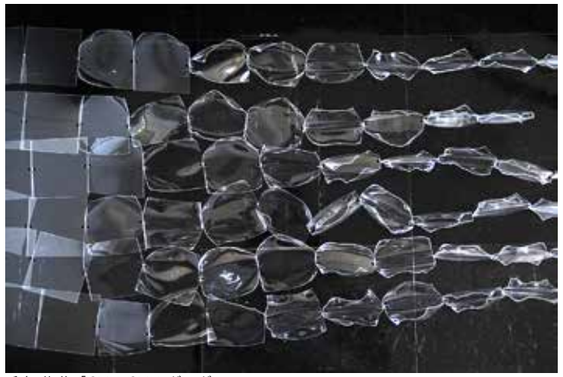
宮本 多聞「HAPPY8 - Department of Architecture」

鈴木スタジオ

連続するそのもの

建築を構成する様々な素材には、それぞれの物性に基づいた加工法・接続方法・組立て方が存在している。それら素材的特徴を、所与の物質そのものが持つ潜在性の一つの断面として捉え、従来とは違った角度から素材自体の新たな可能性を再考し、建築的空間性に応用することを試みる。
構築物の計画において、
1. 構築物を構成する素材の研究
2. 接続 / 組立て方法の設計
3. 素材特性・接続 / 組立て方法から
　連続的に全体を組織するパラメトリックモデルの作成
4. ある一定の空間的領域に対する構築物の設計
の４つに着目し、細部から全体のフィードバックを図りながら計画をすすめる。いずれのフェーズにおいても、３次元 CAD およびプログラミング言語を用いることをこのコースの基本とする。
最終成果物として、１～４までのプロセスを説明する資料を作成する。

大稔 真由「CB project」


手島 絢菜「GYU GYU ギュギュ」

三浦 大樹「摩擦の殻」

高橋スタジオ

敷地のリノベーション―場所性を耕す―

近年、建築デザインをめぐる職域や状況も変化しているなかで、プリミティブに建築の可能性を考えてみたい。「場所性」とは周辺環境も含めたその土地がもつ場所の特徴や成り立ちであり、一つの環境を設計していく上でその場所の前提を読み込むことはとても重要である。今回の課題ではその読み込んだ「場所性」を建築によって刷新、アップデートすることを意識すること。そしてそれがどのように周辺も含めた人間の活動や様々な事柄の「それから」の運命を変化させるか、考えること。最終的な想定はもちろん人がその場所を利用することだが、人間がどう利用するかという道具的な観点を直接の出発点として考えるのではなく、関係性が周り巡って人のためになっていく無理のない環境を設計すること。トライアンドエラー、スタディーを通して育てていき、建物、ランドスケープ、アート、インフラ、そのような枠組みにおさまらない、これからその場所の前提を担う価値ある建築の計画を目指す。

駒井 慶一朗「空堀の始まり」

伊藤 弘貴「環境を採り込む筒」

平川 凌成「虚実の箱」

布施スタジオ

「薄さ」が決める建築

―建築を構成する要素の薄さを考える事で新しい風景を見つける―

建築が立ち上がるためには、躯体があり、設備があり、建具があり、仕上げなどが必要です。それぞれの要素はそれぞれの役割を担っているが、それぞれの要素ごとにある一定の厚みや大きさが存在する。
それぞれの要素が元々持つ厚みや薄さが、建築の見え方を決めていると言っても過言ではない。
それぞれの要素が元々持つ厚みを変えてみる＝薄くすることで見え方や風景が新しいものに見えてくる可能性があるだろう。「薄さ」や「薄いこと」がどのように風景や建築を面白く魅力的にするか、を図面や模型を通して確認しながら提案・説明しなさい。ある要素を「薄くすること」で他の要素に影響が出ることがあるはずである。その影響についても考えること。
各自が敷地と規模を決め、「薄さ」をはらんだ風景を、建築的操作で表現しなさい。

藤野 なみか「揺らぎに惑う」

荒木 愛香「見え隠れ」

山田 陽平「薄さの現象」

菊地スタジオ

地形を読み解き建築を考える

我々が暮らす東京は特徴的で複雑な地形をもつ、世界にも例がないほどの巨大都市である。地形を読み解き (Geography)、土地を学び (Geology)、土地を測る (Geometry)。地形を理解することで、そこに生み出された都市空間が見えてくる。地形がつくられた理由やその時間的変遷を調べ、都市や建築を地形との関係から学んでいく。さらに自ら魅力ある地形を見つけ出し、そこにその特徴を活かした新しい都市空間を計画してほしい。

小林 木綿子「小さな地形が現れて」

小林 ひらり「建築は整地から始まる」

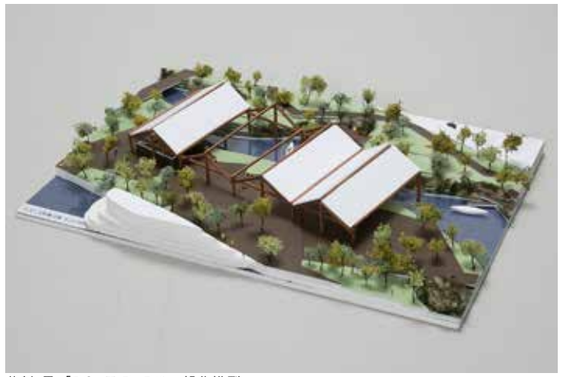
高橋 主馬「姿見の池工房」

長谷川スタジオ

URBANWILDERNESS

1. 東京湾の埋立地は江戸時代から始まっているが都心に近い部分は水深が浅く、コンテナ輸送が主流となってから、倉庫、バースも含め、水深が取れる沖合に展開していくようになった。よって都心に近い埠頭は今までは再開発の対象地となることが多かったが、それもここに来て手詰まり感がある。これらに次の役割を与えられないだろうか？
2. 東京湾は巨大な生態圏でもあり、都市に隣接した「野生の領域」としての顔も持っている。海に接続した都市として、東京湾とは長大なインターフェースで結ばれており、生態系、微気象の観点はもとより、都市生活の大きな一部として存在している。にも関わらず、現在の都市構造は湾との関係があまりにも希薄ではないだろうか。
3. 内港の埠頭は都心に近いという立地から非常に大きなポテンシャルを持っている。旧来の施設型再開発ではなく、これからの東京の姿を描くために内港埠頭を都心近接型の urbanwilderness として捉え、都市生活と野生が両立する新しい「場所」の創出を考えてみたい。

若杉 勇「BOAT PARK」


若杉 勇「BOAT PARK」部分模型

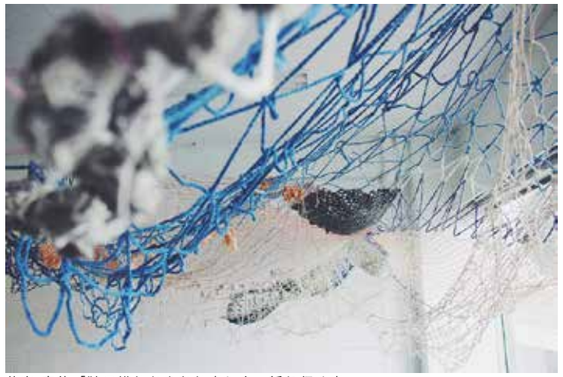
近藤 良平「NoW Entry」

土屋スタジオ

時代を超えた表現の交差

この世界に存在する無数の芸術表現は、その一つ一つがある時代を映し出しながらも、過去から現在そして未来へと連綿としたつながりをもっている。それは芸術表現というものが人と世界との関わりにおける反射であり痕跡であるからこそ、異なる時代すらも超越し、絶えず更新されながら受け継がれていくからだろう。過去に表現者として個人を確立した作家の作品には、現時代における私たちの表現の根幹ともなり得る“種”を見いだすことができる。本課題では、「敬愛する過去の作家の一つの表現」を選択し、その表現との「濃密な会話」の中から「自分自身の表現行為における動機 (= 種)」の一端を見つけ出し、それを「現時代における自分自身の一つの表現として結実させる」ことを目指す。そこには「時代を超えた表現の交差がもたらす、未知なる表現」が創出するだろう。

硴崎 敬祐「壁の中の世界」


芝山 由佳「漣の織りかさなり来し方、揺れ行く末」

鮫島 慧「私たちの『ごはんの正体』」

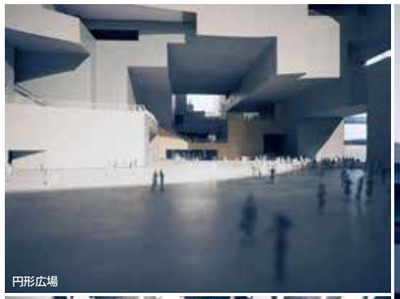
卒業制作｜金賞・優秀賞（学校賞）

品川駅改造計画 - 都市を異化する -

山田 陽平｜布施スタジオ｜建築設計

都市に積極的に関与する建築を設計する。建築を置く行為は少なからず周囲へ何か影響してしまう。この影響をポジティブに捉えることで、建築による都市の設計が可能なのではないかと考えた。従って建築を設計する際に、コンテクストを読むだけでなくコンテクストを生成することに注目する。また、現状のコンテクストに対してコントラストとなる建築を提案することで、周辺都市を逆説的に浮かび上がらせ、周囲を含め新しい都市へと飛躍することを意図する。これを建築による都市の異化作用とし、コンテクストとコントラストを生成することが、ここでの建築の目的となる。

品川駅前に巨大な穴を開ける。この穴は現在実際に建設されているリニアモーターカーの駅として提案する。穴は地下空間として強力なコンテクストとなる。同時に、ここをどこかシュルレアリスム的風景の都市へと変容させる。


円形広場

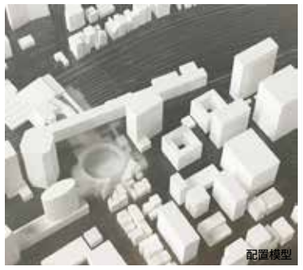
穴の俯瞰

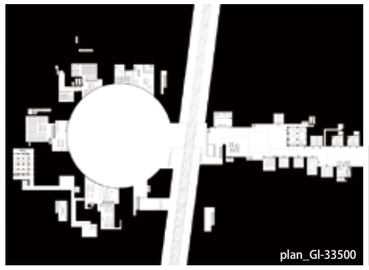
リニアモーターカー乗り場

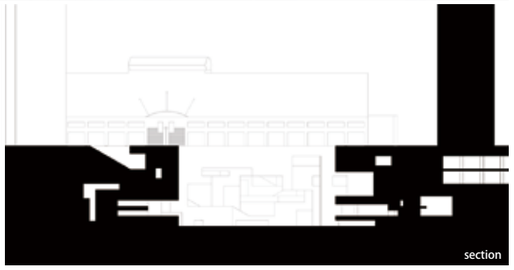
ショッピングモール俯瞰

美術館_展示室

アプローチ


配置模型


plan_GI-33500

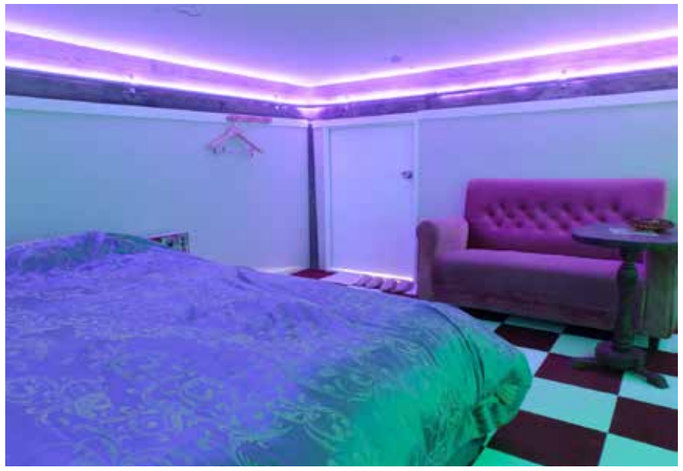

section

銀賞・優秀賞（学校賞）

space 7

石井 夏帆｜土屋スタジオ｜インスタレーション

私はこれまで、与えられた場所・そこにある空間をいかにして自分なりの空間にするか、ということと向き合ってきた。その中で建築はもっと自由でいいと思った。発想の転換次第でそこはただの階段下にも、異空間にもなりうる。
ラブホテル、特に日本におけるそれは、狭い生活空間の中で生きる我々にとって自分をさらけ出して楽しむことができる心のスキマなのではないだろうか。そこでムサビの隙間に人々の心のスキマを展開させた。

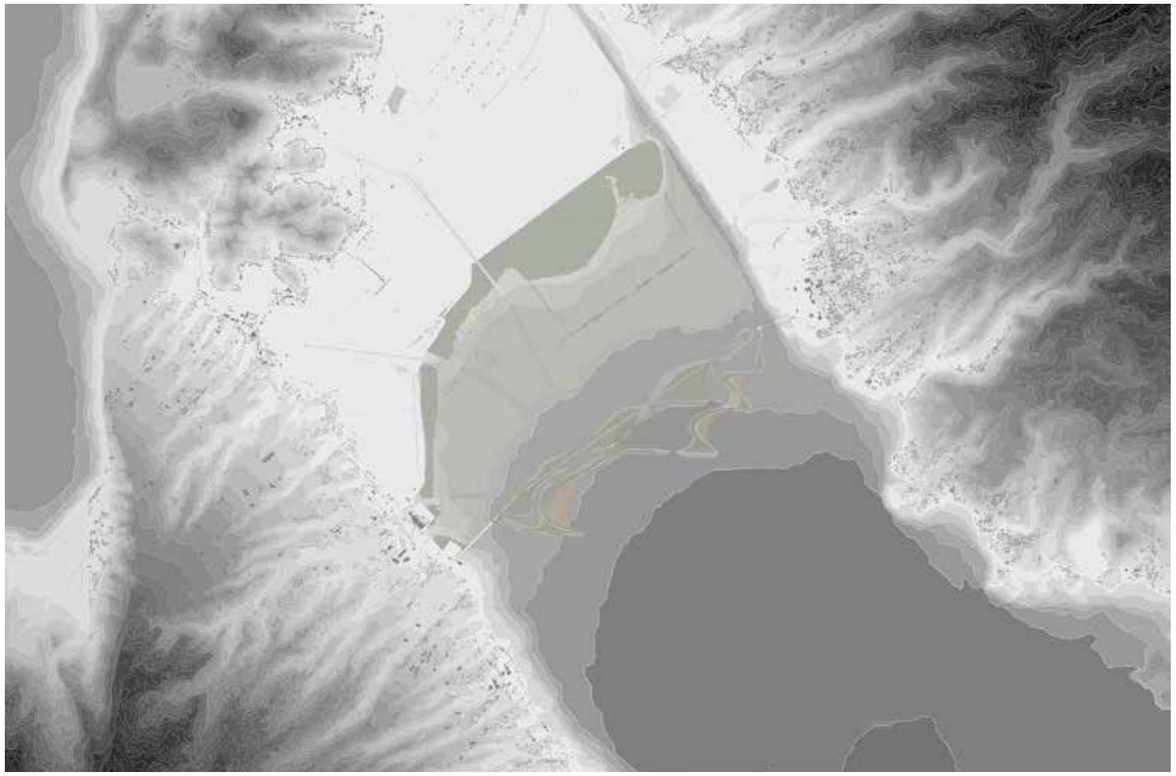


卒業制作｜銅賞

DIKE SCAPE

若杉 勇｜長谷川スタジオ｜ランドスケープ設計

敷地は長崎県の諫早湾。この場所は約 20 年前に諫早湾干拓事業によって全長 7km の堤防で湾が仕切られた場所である。その堤防によって諫早湾の自然環境が一変し、生態系も衰退した。この場所の土木的な問題は湾を堤防で仕切った調整池と有明海で起こっている。私はその堤防の機能を保持しつつ、土木的な問題を解決して自然環境を生み出す堤防へとリデザインした。調整池側では水流の改善のため堤防に切り込みを入れ、貯水量の増幅の為に堤防を新たに築き堤防に貯水機能を持たせた。有明海側では干潟の形成を促す為に有明海の海流に乗ったガタ土を受け止めるような形へと操作した。また堤防にビオトープを発生させ、自然の浄水機能を持たせるために盛り土をした。この場所の干潟や自然環境は長い時間をかけて成長する。私が設計した範囲はこの堤防のマスタープランとこの場所にアノニマスに発生するアクティビティのレシピである。模型は 30 年後に起こりうるパターンの一種である。

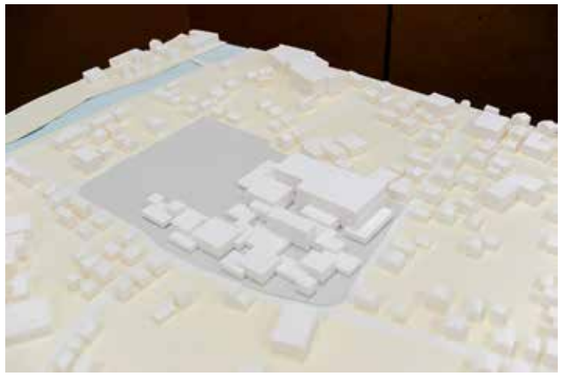


奨励賞・優秀賞（学校賞）

交わりの学び場

荒木 愛香｜布施スタジオ｜建築設計

かねてから「単純な構成だが複雑に見える空間、しかし設計は単純」な建築を作りたいと思っていた。この作品は四角形のみで構成され、水平垂直にリズミカルに場を重ねることで複雑に見える空間を生む。だが設計は単純で、訪れた人は気軽に施設を使うことができる。静岡県の西伊豆にある松崎町に、コミュニティセンターと小学校、鏝絵職人養成所の複合施設を設計する。目的は、町の新たな価値となる賑わいの施設を計画することである。松崎は昔ながらののどかで温かい町であり、町の芸術として松崎出身の入江長八が生んだ「鏝絵」がある。町は現在、少子高齢化と観光客減少に悩んでおり、鏝絵に関しては、職人不足かつ後継者を育成する場もない。それらの問題解決方法として、町の魅力や必要な機能をひとつに集め、開放型の施設にすることにより新たな人々の居場所となる施設を提案する。施設は観光名所としても機能し、松崎や鏝絵の魅力発信の場となる。

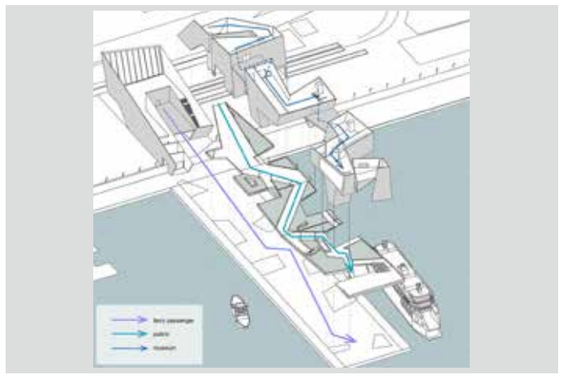


奨励賞・優秀賞（学校賞）

汀に寄せて - 広島フェリーターミナル -

佐々井 歩｜布施スタジオ｜建築設計

広島駅から路面電車で約 20 ～ 30 分で行くことができる、街にとっては身近な広島港。ここは、周辺の島々から市街地へ通勤・通学で利用され市民にとっては欠く事ができない生活港としての機能も担っている。いわば、海から広島、広島から海への港の玄関口である。しかし、現状は場所から場所への通過点にすぎず広島の市民にとって海辺、港に対する関心はいまひとつ希薄な印象がある。そこで、休みの日には子供を連れて美術館へ、夕暮れ時にはカップルが桟橋の上で海を眺めに訪れる…そんな立ち止まり滞在したくなるような場所を目指した。
ボリュームの形は、海の中の岩やテトラポットをイメージしてデザインしている。敷地は、南側に瀬戸内の島々と海が広がり、北側はそれとは対照的な広島市のビルや街が見える。是非、ボリュームによって切り取られるここでしか見られない風景を想像してもらいたい。

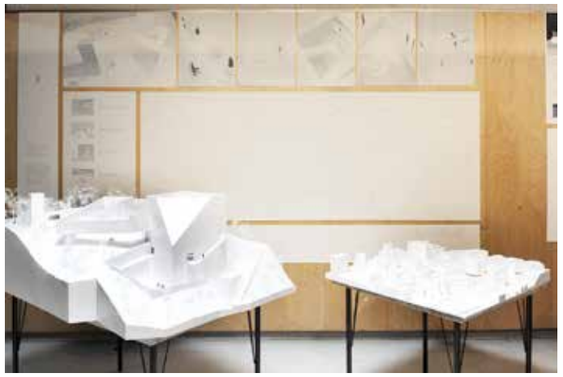


卒業制作｜優秀賞（学校賞）

対峙

藤野 なみか｜布施スタジオ｜建築設計

私たちの周りは、音や温度や匂いなど様々なもので溢れている。一時もとどまらず変化し続ける自分と自分以外のあらゆる「他者」との向き合いの場としてのギャラリーを設計した。中目黒の斜面地にある敷地は、上下に二本の接道を持つ。この二つの道路を繋ぐ道のような建築を目指した。ギャラリーは内外三本の動線から成り、それらは視線的に交わりながらも物理的に繋がることはない。
各展示空間は部屋ではなく、あくまで道としてその連続の中に存在する。このギャラリーの展示物は作品であると同時に、それが置かれている環境そのものである。道を辿り、目の前の作品と対峙し、微細に変化する周りの環境や空間体験に気が付く。普段意識せず当たり前に受け取る「他者」の存在を確認し、自身の体験として経験に置き換え見つめてみることは、自己との対峙にもなり得るのかもしれない。



奨励賞

大地の積層

小林 ひらり｜高橋スタジオ｜建築設計

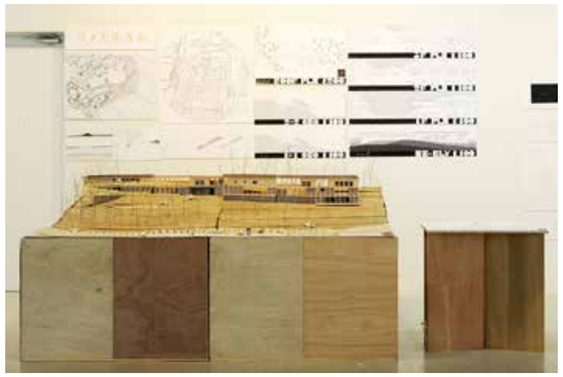
現在都内各地では再開発が進み超高層オフィスが数多く計画建設されている。その一方で、生産年齢人口は減少の一途をたどり、生産年齢人口の流入が期待できる 東京都でも減少が予想されている。それに伴い、オフィスの床ストックは次第に増えていくと考えられている。そのような事実がある中、床面積を確保するための経済的かつ合理的な構成によってオフィスを建設する現状を疑問に思い、この構成を変えながら設計を進めた。具体的には地面から連続的にフラットな場所と勾配のある場所をコントロールしスラブを積層する。フラットなところには家具が置けるが、勾配のあるところは家具が置けない余白の空間となる。この余白は、空間を緩やかに分け、時には腰掛けたり寄りかかったりできる家具のようなものへと変わる。このオフィスは、私たちの自由な振る舞いを喚起し身体に寄り添う空間を実現する。

奨励賞

コメと生きる

小松﨑 陸｜高橋スタジオ｜建築設計・ランドスケープ設計

茨城県の志筑という農村。古くからコメの産地として知られている。筑波山から霞ヶ浦へと流れる恋瀬川沿いには、広大な水田地帯が拡がる。川沿いの水田に面した丘の傾斜地を敷地に設定し、建築を設計する。丘の下には、地形によって囲まれた 28ha の水田がある。この水田で取れたコメを加工する機能と、研修者としてこの場所を管理する人のための、宿舎や研修機能を持つ農業研修施設を計画する。建物の構造は、RC 造・木造の混構造とした。
蔵や水回りの室は RC 造。コメを保存できるように、人のプライバシーを守るために、閉じる。居室や作業場は木造。比較的開かれた室と、完全に外へと開かれた風通しの良い外部空間ができる。外部空間では、イネの乾燥をしたり、眺望の良い場所で講義を行う。夏は風のよく通る開かれた場所で、冬は閉じられた場所で人の活動が起きる。コメの加工・保存、さらに人にとっても良い環境となる。



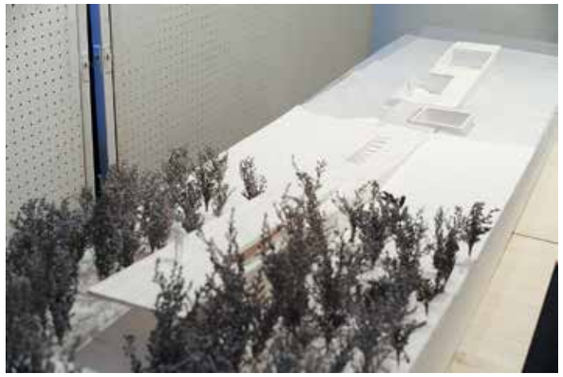
奨励賞

ちいさな地形が現れて - 僅かに佇む観察塔 -

小林 木綿子｜菊地スタジオ｜建築設計

東京湾の埋め立て地によみがえった自然に現れた、小さな地形。そこに佇む観察塔。鳥たちの様々な生態を、静かに観察するための空間を設計する。東京港野鳥公園は、かつては遠浅の海だった。敷地である潮入の池は、東京湾と水門でつながっているため、東京湾の潮の干満に応じて水位が変化する。満潮時には水没し、干潮時には干潟が現れる。

設計テーマ
僅か [はつか]･･･視覚に感じられる度合いの少ないさま。「目立たない」「小さく」設計することの意図は人間の自然景観への期待を裏切らない、ということである。しかし野鳥への配慮はさらに大切であると考える。観察塔は最も身近に野生の生物を感じることのできる施設である。そこは訪れた人々の憩いの場であり、そこは鳥たちの翼を休める場となる。

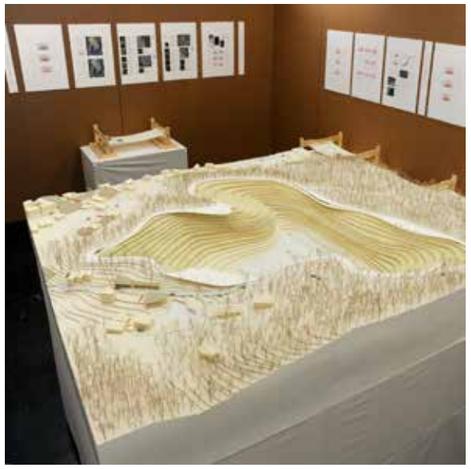


学部４年間で取り組んだ制作や研究のテーマをさらに深め探求したい学生には大学院進学という選択肢もあります。
大学院では、専門領域・建築理論・方法論を異にする教授のもとで各スタジオに所属し、それぞれに中心テーマをもって自分の課題に取り組みます。スタジオの指導教員と密接な関わりをもちながら、将来、建築家・デザイナー・アーティスト・研究者として活動するための制作・研究の核心となる考え方や方法を探求していきます。

構造的深淵研究

上坂 直｜土屋スタジオ｜インスタレーション

幾層にも積み上げられた地上空間と、幾層にも拡張された地下空間によって構成される現代の都市。グラウンドラインというものは広々とした空と詰まった地面の境界に存在し、そこに足を着けて生きることこそ我々の本来の姿であったが、都市においてその存在は非常に曖昧になりつつある。我々は無意識的に地上と地下を行き来しており、都市のレイヤー構造の中で自分がどの層を歩いているのかを考えることすら、もはやほとんどなくなったのではないだろうか。この多層的な都市の構造は、目紛しく移り変わる現代の魅力のひとつであるとともに、ある種の不安定さを感じさせざるを得ないものでもある。深く堕ちていく地下への階段は、現代社会が生み出した「都市の深淵」である。高層建築のミニチュアとも言える不安定なキャビネットにこれを落とし込むことで、止まることなく鉛直方向に広がる現代の都市の構造に疑問を投げかけたい。深淵は今もなお増殖し、我々が踏みしめるべき大地を蝕み続けている。



穴を綴る

野口 友里恵｜長谷川スタジオ｜ランドスケープ設計

愛知県・岐阜県の県境に存在する窯業のための粘土を採る『陶土採掘場』に既存のまちとの関係性を構築するプロムナードの設計を行った。この地帯に点在する巨大な採掘場という穴は、50 ～ 100 年掘られ、近年その多くが採掘の役目を終えて跡地として取り残されようとしている。穴はこの地に根付き、掘られていく過程でまちの建築や機能の配置を位置付け、この地帯一帯の窯業を繁栄させてきた。かつて穴がまちの配置や流れをつくったように、穴のまわりにプロムナードという新たな動線を作ることで穴から再び新たなまちの流れを生み、既存のまちの配置を活かしながら新たな動線や風景を生み出していく計画である。

changing house

リュウ ジェシー｜高橋スタジオ｜建築設計

ある空間を体験するとき、そこで受ける空間のイメージというものは、人の感情や行為によって常に変化する。それは、空間を構成する、ありとあらゆる要素においても同様である。空間には、柱や壁、扉など、様々な要素が存在するが、それら一つ一つは空間を構成するうえで重要な役割を果たしているにもかかわらず、空間を定義づけるために、その役割は規定され、私たちの意識の外に追いやられてしまう。空間を構成する要素を抽象化することで、それらを人に知覚させることのできる空間をつくり出す。普段、私たちが体感しているスケールを取り除き、新たに様々なスケールを与える。日常生活で意識の外にある要素と、それに伴う空間の認識を変形させ、複雑に配置することで、一つの物に対して二つ以上の意味を与える。私は、建築は抽象絵画のようだと考えている。抽象絵画は、現実世界に存在する物を表現するのではなく、形や色で、芸術家自身の主観的な世界を表現し、現実世界を超えようとする。建築においても、空間を構成するあらゆる要素のスケールや空間認識を変形させることによって、主観的に空間のイメージを捉えることが可能となるのではないだろうか。「形態は機能に従う」のではなく、「人は形態に従う」。そのような空間をつくり上げた。

学外とのコラボレーション／国際交流

建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランドスケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。
また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取り組んでいます。

■ 2010 年度以降の学外プロジェクト
愛知県額田天使の森アートプロジェクト / 茨城県旧八郷地区・アートサイト八郷 / 太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ / 神楽坂プロジェクト / 笠間の菊まつりプロジェクト / 鎌倉御成町プロジェクト / 近代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト / 高知県佐川町プロジェクト / JR 中央ラインモール計画 / 瀬戸内・女木島プロジェクト / 常盤平アートセンタープロジェクト / 徳島県勝浦川環境アートプロジェクト / 松戸アートラインプロジェクト / 横浜黄金町再生プロジェクト / ららぽーと立飛スペースデザインプロジェクト / 陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト / 横瀬町プロジェクト / 小平市連携プロジェクト「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」

■ 2010 年度以降の国際交流プロジェクト
「すき間」から考える新しい住まい方 (デンマーク王立芸術アカデミー建築学部)/ チェルシー・キャンパス・プロジェクト (ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン) / 地下探訪―都市形成の変遷とカタフィル文化の考察 (パリ国立高等美術学校)/ 訪問教授フィリップ・ベヌカン (フランス)/ 訪問教授ハッリ・コスキネン (フィンランド)「Light Matters」/ 訪問教授ソフィー･クレール (オランダ)「Field Essays Workshop “matter that matters”」/ 訪問教授エンリック・マシップ (スペイン)「ラーバン」

横瀬町プロジェクト

小平市連携プロジェクト「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」

建築学科の施設

製図室｜ 1-3 年生まで学年別の製図室で設計課題の制作を行います

ゼミ室｜ 4 年生は所属するスタジオごとに制作を行います

建築工房｜写真スタジオやパネルソー、レーザー加工機等様々な機材を備えています

展示スペース｜普段はフリースペースですが、講評時には作品の展示・発表が行われます

教員紹介

多彩な専門分野・研究テーマをもつ教員が、学生ひとりひとりの関心に合わせて指導します。

鈴木 明 主任教授

www.facebook.com/akirasuzukistudio

1953 年東京都生まれ。77 年武蔵野美術大学建築学科卒業。79 年同大学院修士課程修了。新建築社編集部勤務を経て、86 年建築都市ワークショップ設立。2000~14 年神戸芸術工科大学 (01 年 ~ 教授)。14 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品に「建築教室」(ワークショップ)、「せんだいメディアテーク」「多摩美大図書館」インタラクションデザイン (設計 = 伊東豊雄)。著作・研究に『つくる図書館をつくる』(鹿島出版会)、「ル・コルビュジエ・モデュロールの身体図像研究」。

—専門分野・研究テーマ
建築デザイン、建築計画、建築論、インタラクションデザイン。社会的な活動としてワークショップによるまちづくり、建築批評や建築展 (企画運営)。研究課題として「セルフビルド建築研究」「ル・コルビュジエの身体図像に関する研究」など。

—鈴木スタジオのテーマ
3 年生は、身の丈の家 (人間の身体寸法やふるまいから建築や都市を考察し設計する) に取り組み、4 年生は、コンピュータを用いたパラメトリックな建築の方法論を学びます。卒業研究 (論文と制作) は、これら基礎的な方法論と各自の関心から、建築設計・建築理論・セルフビルドなど個別の研究を進めます。

源 愛日児 教授

www.arc.musabi.ac.jp/studio/minamoto/

1951 年京都府生まれ。76 年東京大学工学部建築学科卒業。82 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、工学博士取得。94 年 ~ 武蔵野美術大学教授。著書に「ジョイント」(『現代建築の発想』所収)(1989 年、丸善)、『飛騨古川町タウントレイル 2』(2006 年、飛騨の匠文化館)、『木造軸組構法の近代化』(2009 年、中央公論美術出版社)、『中村達太郎—日本建築辞彙 [新訂]』(共編・共著、2011 年、中央公論美術出版) など。

—専門分野・研究テーマ
デザイン行為における参照概念の存在とその変容の様相を、日本の歴史的木造建築構法を対象に研究すること。継手仕口、指物架構の類型、在来木造の成立などの研究。

—源スタジオのテーマ
概念から自由である建築、環境のデザイン。その環境に暮らす人が自由である、またそのことを通して人の存在感に働きかける建築デザインを目指す。歴史的都市の変容、身体と建築、現象の建築化、連家など。

高橋 晶子 教授

建築家
ワークステーション共同主宰

www.wstn-arch.com/takahashistudio/

1958 年静岡県生まれ。80 年京都大学卒業。82 年東京工業大学大学院修士課程修了。86 年博士後期課程中退。86~88 年篠原一男アトリエ。88 年高橋寛とワークステーション設立。2004 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品に「高知県立坂本龍馬記念館」(JIA 新人賞他)、「アパートメンツ東雲キャナルコート」(BCS 賞他)、「芦北町交流センター」(日本建築学会作品選奨他)。著書に『パブリック空間の本』(彰国社)。

—専門分野・研究テーマ
建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

—高橋スタジオのテーマ
無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。

布施 茂 教授

建築家
fuse-atelier 代表

studio.fuse-a.com

1960 年千葉県生まれ。84 年武蔵野美術大学建築学科卒業。84 年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85 年 ~ 第一工房、95 年同設計部長。2003 年 fuse-atelier 設立。04 年武蔵野美術大学助教授。06 年 ~ 同教授。主な作品に「全労済情報センター」(第一工房)、「群馬県立館林美術館」(第一工房)、「House in TATEYAMA」、「House in ABIKO」、「House in TSUTSUMINO」、「HOUSE in TSUDANUMA」など。

—専門分野・研究テーマ
建築設計。建築におけるシークエンス、空間の分節、プロポーション、素材、ディテールの探求。

—布施スタジオのテーマ
建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探求します。

小西 泰孝 教授

小西泰孝建築構造設計 主宰

1970 年千葉県生まれ。95 年東北工業大学工学部建築学科卒業。97 年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。97 年佐々木睦朗構造計画研究所入社。2002 年小西泰孝建築構造設計設立。17 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品 (構造) に「神奈川工科大学 KAIT 工房 (石上純也、2009 年日本建築学会賞、第 3 回日本構造デザイン賞)」、「上州富岡駅 (TNA、2014 年日本建築学会賞)」、「立川市立第一小学校 (シーラカンスアンドアソシエイツ)」、「中国美術学院民芸博物館 (隈研吾)」など。

—専門分野・研究テーマ
構造デザイン、構造設計、構造力学。建築を主とし、その他、工作物、橋梁、什器、インスタレーションなどを含んだ、様々な規模・用途に対する構造デザインの研究。

—小西スタジオのテーマ
「構造」には、地震、暴風、積雪などの自然災害力に対する防御だけではなく、建築・環境のデザインや機能をより高めることができる力があります。建築と「構造」の融合を高い水準で図り、建築をより美しく、より豊かに、より安全にすることで、地域・社会に寄与貢献することを目指します。

菊地 宏 准教授

建築家
菊地宏建築設計事務所代表

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio

1972 年東京都生まれ。98 年東京理科大学大学院修士課程修了。妹島和世建築設計事務所 (SANAA)、Herzog & de Meuron (スイス・バーゼル) を経て、2004 年菊地宏建築設計事務所を設立。10 年 ~ 武蔵野美術大学准教授。主な作品に「南洋堂改修」、「大泉の家」(住宅建築賞)、「畑の見える家」などがある。著書に『菊地宏 | パッソコンティヌオ—空間を支配する旋律』(2013 年、LIXIL 出版)。

—専門分野・研究テーマ
建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

—菊地スタジオのテーマ
建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。

長谷川 浩己 特任教授

オンサイト計画設計事務所パートナー

musabi-landscape.net

1958 年千葉県生まれ。千葉大学を経て、オレゴン大学大学院修士課程修了。2009 年 ~ 武蔵野美術大学特任教授。「横浜ポートサイド公園」、「館林美術館 / 多々良沼公園」、「丸の内オアゾ」、「東雲 CODAN」、「星のや軽井沢」、「ハルニレテラス」、「日本橋コレドの広場」などで、グッドデザイン賞、造園学会賞、土木学会デザイン賞 (最優秀賞)、AACA 芦原義信賞、ARCASIA GOLD MEDAL、アーバンデザイン賞などを受賞。共著に『つくること、つくらないこと』(学芸出版社) など。

—専門分野・研究テーマ
ランドスケープ・アーキテクチュア。実務をともない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

—長谷川スタジオのテーマ
自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いので、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。

土屋 公雄 客員教授

彫刻家
環境造形アーティスト

musabi-arc-tsuchiyastudio.info

1955 年福井市生まれ。89 年ロンドン芸術大学チェルシーカレッジ彫刻科修士課程修了 (99 年ロンドン芸術大学より名誉学位授与)。2001 年東京空襲平和モニュメント制作。04 年「記憶の領域」が文化庁買い上げとなる。04 年 ~ 武蔵野美術大学客員教授。朝倉文夫賞、現代日本彫刻展大賞、五島記念文化賞、英国 オナラリー賞、奈良県景観調和デザイン賞、本郷新賞など受賞多数。作品集に『所在』(アトリエ出版社)、『記憶』(美術出版社)、著書に『月を追いかけて』(ティルナノーグ出版)。

—専門分野・研究テーマ
環境造形、現代美術、アートプロジェクト。1 分の 1 の感動体験と、実践的な活動を通し新たな表現世界を探求する。

—土屋スタジオのテーマ
建築とアートの領域をしなやかに超え、想像力と創作力を友として、未来を力強く生き抜くクリエイターを育てたいと願っています。

横河 健 客員教授

建築家
横河設計工房主宰

※スタジオは開設していません

1948 年東京都生まれ。72 年日本大学芸術学部美術学科卒業。76 年設計事務所クレヨン & アソシエイツ設立、共同主宰。82 年横河設計工房設立。2001 ~ 03 年日本大学研究所教授。 04 ~ 06 年日本建築家協会副会長。03 ~ 14 年日本大学理工学部建築学科教授。16 年 ~ 武蔵野美術大学客員教授。主な作品に「グラスハウス」(日本建築学会賞作品賞)、「CESS/ 埼玉県環境科学国際センター」(日本建築家協会環境建築賞)、「武蔵野市立 0123 はらっぱ」(日本建築学会作品選奨)、「杉浦別邸 多面体・岐阜ひるがの」(JIA 日本建築家協会賞) など。

—専門分野・研究テーマ
建築設計・監理、家具他プロダクトデザイン

—学生に期待すること
世界的視野をもつこと、良い暮らしを目指すこと、先頭に立つ勇気をもつこと。

アストリッド・クライン 客員教授

建築家
クライン ダイサム アーキテクツ共同主宰

※スタジオは開設していません

1962 年イタリア生まれ。86 年エコール・ド・アール・デコラティーフ卒業。88 年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修了。88 年 ~ 伊東豊雄建築設計事務所を経て、91 年マーク・ダイサムと共同でクライン ダイサム アーキテクツを設立。2009 年 ~ 武蔵野美術大学客員教授。主な作品に「DAIKANYAMA T-SITE」、「相馬こどものみんなの家」、「GINZA PLACE」、「OPEN HOUSE Central Embassy」ほか国内外で様々なプロジェクトを手がける。D&AD Awards、WAF Awards、DFA Awards など受賞多数。

—専門分野・研究テーマ
建築設計、インテリアデザイン。

—学生に期待すること
見た人が建築に憧れを抱くような、行きたくなる、そこに居たくなる素敵な建築を作ってほしい。

講師

青木 弘司 (設計計画 III-2)
石井 秀幸 (設計計画 III-2)
伊藤 寛 (設計計画 II-1)
伊藤 裕久 (都市デザイン B)
今村 水紀 (設計計画 II-2)
岩下 泰三 (図学)
上田 明宏 (建築施工 I/II)
大井 早苗 (計画原論 A)
大嶋 信道 (建築材料学・実験 I)
大野 暁彦 (ランドスケープデザイン近代史)
岡本 真理子 (基礎数学、応用数学)
興松 良昌 (写真表現)
奥野 公章 (設計計画 III-1)
小倉 康正 (建築設計表現、造形総合・デザイン II、設計計画 I-1/2)
笠置 秀紀 (建築設計表現)
加藤 修 (環境生態学 I/II)
亀山 本果 (環境計画 b)
河内 孝夫 (建築設備・実験 I/II)
川口 有子 (設計計画 III-2)
川村 政治 (建築設備特論)
岸田 省吾 (建築意匠 A)
河内 一泰 (設計計画 IV)
河野 有悟 (建築設計基礎)
後藤 茂 (都市デザイン A)
小林 敦 (建築設計基礎)
小林 和夫 (建築設備・実験 I/II)
小松 宏誠 (設計計画 III-2)
近藤 哲雄 (設計計画 IV)
齊藤 祐子 (設計計画 II-2)
笹口 数 (設計計画 III-1)
佐藤 至 (建築法規 I/II)
三幣 順一 (設計計画 III-2)
渋江 桂子 (環境生態学特論)
鈴木 賢人 (構造力学基礎)
鈴木 竜太 (設計計画 I-1/2)
砂山 太一 (設計計画 IV)
髙沖 哉 (環境計画 b)
田口 明美 (建築設備・実験 I/II)
田原 唯之 (設計計画 IV)
田宮 晃志 (設計計画 II-2)
常山 未央 (設計計画 III-1)
戸井田 雄 (造形演習)
中川 純 (計画原論 B)
中村 幸悦 (構造力学 I)
林 英理子 (設計計画 IV)
彦根 アンドレア (設計計画 IV)
藤田 修司 (設計計画 II-1)
細矢 仁 (設計計画 IV)
増田 信吾 (設計計画 IV)
松井 晃一 (構造力学 II)
三浦 清史 (建築材料学・実験 II)
水上 哲也 (設計計画 II-1)
三家 大地 (設計計画 III-1)
元木 大輔 (造形総合・デザイン II)
山内 彩子 (環境計画 b)
山田 茂雄 (庭園史)
山村 尚子 (設計計画 II-1)
山本 大介 (設計計画 II-1)
祐乗坊 進 (環境デザイン論)

研究室スタッフ

助手
安島 総一郎
入江 剛史
平田 紗彩

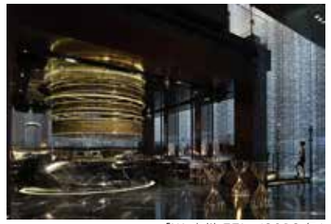
教務補助員
橋田 圭介
鮫島 慧
田中 雄己

酒向 昇
建築デザイナー
竹中工務店東京本店
設計部副部長

富岡製糸場西置繭所仮設見学施設 (2016 年)

—現在のお仕事について
オフィスビルの設計を中心に、設計から実施設計・監理、コンペや改修までを担当する設計グループを率いています。
—ムサビで学んだこと
設計課題に取り組むことで、問題を明確化し解決するプロセスを学び、それは現在の仕事にも活きています。

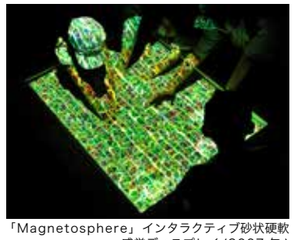
小坂 竜
乃村工藝社
商環境 事業本部 A.N.D.
クリエイティブディレクター



「W 広州 FEI」(2013 年)
「Restaurant & Bar Design Awards 2014」大賞受賞

—現在のお仕事について
大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レストラン・レジデンスなどのデザインをしています。
—ムサビで学んだこと
色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しさを経験することができました。

串山 久美子
メディアアーティスト
首都大学東京教授



「Magnetosphere」インタラクティブ砂状硬軟感覚ディスプレイ (2007 年)

—現在のお仕事について
デジタル技術を利用した映像や音や触覚のインタラクティブアートやインターフェイスデザインの制作・研究・開発をしています。
—ムサビで学んだこと
学ぶことと遊ぶことがとても近いこと、思考の柔軟さ、何でも前向きに楽しんでチャレンジする面白さを先生や友人から学びました。

KIKI
モデル

「DogoKamelieHutte/ 椿ヒュッテ」
(道後オンセナート 2014 にアーティストとして参加) 撮影 =KIKI

—現在のお仕事について
雑誌はじめ広告、TV 出演、連載執筆。近年では自身の写真展『PRISMA』シリーズを発表。また芸術祭に作家として参加など。
—ムサビで学んだこと
建築と一言でいっても幅広い世界があり、さまざまな表現方法があること。また何かを一つのことを続ける大切さを教えてもらいました。

小塙 香
KOBFUJI Architects 共同主宰

「スマラガ郷土資料館」(2014 年)
撮影 =KOBFUJI Architects

—現在のお仕事について
スペイン・バルセロナを拠点に、建築・内装設計や展覧会等のイベント企画制作をしています。
—ムサビで学んだこと
分野を超えた授業内容により、音楽、デザイン、アート、美術史等、多方面から建築へアプローチすることの楽しさを学びました。

高津 尚悟
日経ＢＰ社
日経ＢＰ総研　社会インフラ研究所
プロデューサー

2014 ～ 15 年にかけて全国巡回した
特別展「ガウディ × 井上雄彦」

—現在のお仕事について
出版や展覧会のプロデュースのほか、地方創生やインバウンド、ホストタウン DMO など、まちづくり全般のコンサルティングを手掛けています。
—ムサビで学んだこと
建築からデザイン、アートまで幅広い分野で刺激を受けました。そのことが現在の " まちづくり " という総合的な仕事に役立っています。

大島 芳彦
株式会社ブルースタジオ
専務取締役
クリエイティブディレクター

ホシノタニ団地 (2015 年) 撮影 = ブルースタジオ
グッドデザイン賞金賞 [経産大臣賞] 受賞

—現在のお仕事について
平成 12 年からムサビの同級生 3 人ではじめた会社「ブルースタジオ」でリノベーションをテーマにコトづくりの仕事をしています。
—ムサビで学んだこと
人と同じことより違うことが価値とされる校風。多様な感性をもつ仲間との交流、対話が自らの感性を磨いてくれました。

鄭 秀和
インテンショナリーズ 代表

「ITL VILLA」(2005 年、インドネシア・バリ島)

—現在のお仕事について
建築、インテリア、プロダクトという枠組みを横断して、都市形成に関わることをデザインしています。
—ムサビで学んだこと
異業種のデザインする方々との自然なコラボレーション。

主な就職先

■アトリエ系建築設計事務所
青木淳建築計画事務所、芦原太郎建築事務所、アンドウ・アトリエ、伊坂デザイン工房、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畝森泰行建築設計事務所、小川晋一都市建築設計事務所、オンデザインパートナーズ、カスヤアーキテクツオフィス、城戸崎建築研究室、隈研吾建築都市設計事務所、コンテンポラリーズ、SALHAUS、SANAA、スタジオプラナ建築設計事務所、團紀彦建築設計事務所、手塚建築研究所、永山祐子建築設計、NAP 建築設計事務所、成瀬・猪熊建築設計事務所、能作淳平建築設計事務所、袴田喜夫建築設計室、彦根建築設計事務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細矢仁建築設計事務所、槇総合計画事務所、増田信吾 + 大坪克亘、光井純 & アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラムスタジオ、矢萩喜從郎建築計画、山本理顕設計工場、横内敏人建築設計事務所、ヨコミゾマコト建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ワークステーション、若松均建築設計事務所、403architecture[dajiba]

■組織設計事務所
日建設計、日本設計、あい設計、池下設計、伊藤喜三郎建築研究所、梅沢設計、相和技術研究所、日本建築構造センター、バックグランド、プランテック総合計画事務所、三輪設計事務所、UDS、類設計室

■建設会社
大林組、鹿島建設、清水建設、大成建設、竹中工務店、青木あすなろ建設、SYK、小川建設、鴻池組、JR 東日本、JR 東日本都市開発、ジェイアール東日本 ビルディンング、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、高松建設、動真建設、戸田建設、平成建設、森ビル、ヤマウラ

■住宅メーカー
大和ハウス工業、住友林業、積水ハウス、ミサワホーム、三井ホーム、アキュラホーム、エス・バイ・エル、タマホーム、東急ホームズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム東京、ニットー住宅、パナホーム、古都ホーム、ポラスグループ、ヤマネホールディングス、ユウキ建設、スウェーデンハウス、オープンハウス・アーキテクト

■不動産業
エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、草野工務店、サジェスト、大東建託、東京建物、日神不動産、Fan' s、三井不動産リアルティ

■ランドスケープデザイン
オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ･アソシエイツ、ランドスケープデザイン、ランドブレイン

■インテリア・ディスプレイ
丹青社、乃村工藝社、イニシャルジャパン、イリア、インテンショナリーズ、ウエル・ユーカン、エイムクリエイツ、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、コクヨ、コトブキ、ジーク、GK デザイン、ジールアソシエイツ、昭栄美術、スペース、船場、ソーケン、髙島屋スペースクリエイツ、タカラスペースデザイン、竹内デザイン、ツクルバ、デザインアートセンター、ドラフト、夏水組、日建スペースデザイン、三越伊勢丹プロパティ・デザイン、ルーヴィス

■ファッション
アズノゥアズ、イッセイミヤケ、エース、オンワード樫山、ケイ・ウノ、コムデギャルソン、ベイクルーズ、丸高衣料、リデア、貴和製作所

■舞台
劇団四季、シミズオクト、日本ステージ

■メディア
NHK、テレビ朝日、新建築社、商店建築社、TCJ、マルモ出版、フォアキャスト・コミュニケーションズ、ＴＢＳテックス

■広告・グラフィックデザイン
アマナホールディングス、電通テック、凸版印刷、博報堂アイ・スタジオ、ナカサアンドパートナーズ

■官公庁
宮内庁、宮城県庁、昭島市役所、川崎市役所、神戸市役所、調布市役所

■その他
NTT データ・ファイナンシャルコア、クレスコ、湘南ゼミナール、野村不動産パートナーズ、TOTO エキスパート、日大グラビヤ、日比谷花壇、ベネッセスタイルケア、UT コンストラクション・ネットワーク、ルピシア、レクシア、MAG BY LOUISE 、ムーンスター、ニュウファニチャーワークス

主な進学先・留学先

武蔵野美術大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、東京藝術大学大学院、横浜国立大学大学院、東北大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、大阪大学大学院、首都大学東京、信州大学大学院、熊本大学大学院、大阪市立大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、東京理科大学大学院、明治大学大学院、京都造形芸術大学大学院、同志社大学大学院
AA スクール、オスロ建築デザイン大学、グラスゴー美術学校、デルフト工科大学、プラットインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン大学、ロンドン芸術大学

在校生・卒業生の受賞

■ 2017 年
「第 26 回東京都学生卒業設計コンクール 2017」金賞：山田 陽平
「第 5 回 大東建託 賃貸住宅コンペ」最優秀賞 : 平川 慧亮
「第 17 回卒業設計コンクール」
優秀賞：小林 ひらり、特別審査員賞・総合資格学院賞：若杉 勇
「日比谷ランドスケープデザイン展 2017」優秀賞：濱中 優一
「トウキョウ建築コレクション 2017 全国修士設計展」太田佳代子賞：野口 友里恵
「第 30 回建築環境デザインコンペティション」佳作：田中 裕大
「第 10 回長谷工住まいのデザインコンペティション」佳作：池川 健太
「第 23 回空間デザインコンペティション」入選：池川 健太
「INSPIRELI AWARDS 2016」2nd place：渡辺 大輝

■ 2016 年
「第 16 回住宅課題賞 2016」優秀賞 2 等：羽根田 雄仁
「DSA 日本空間デザイン賞 2016」金賞：山本 大介
「第 25 回東京都学生卒業設計コンクール 2016」三谷賞：遠藤 貴大
「第 15 回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展」出展 : 増田 信吾
「スター・マイカ第 2 回リノベーションコンテスト」
優秀賞 : 大野 馬佑衣、入賞 : 小島 一真・石垣 直将・大稔 真由・飯田 湖波
「JIA 第 14 回大学院修士設計展 2016」奨励賞 : 関 里佳人
「第 9 回長谷工住まいのデザインコンペティション」最優秀賞 : 池川 健太
「平成 27 年度住まいのインテリアコーディネーションコンテスト」部門賞 : 池川 健太

■ 2015 年
「津島型町家の住宅モデルプラン」優秀賞 : 大重 雄暉・井上 岳
「Tokyo Midtown Award 2015 アートコンペ部門」準グランプリ : 上坂 直
「Asia Architecture Award」Short list: 藤田 修司
「Portfolio Review 2015」最優秀賞 : 関 里佳人
「日本建築学会賞」教育賞 : 大島 芳彦
「第 38 回学生設計優秀作品展 (レモン展)」長谷川逸子賞・レモン賞 : 池川 健太
「JIA 第 24 回東京都学生卒業設計コンクール 2015」銀賞 : 野口 友里恵
「第 15 回卒業設計コンクール」特別審査員賞 : 小谷 栄人
「日比谷ランドスケープデザイン展 2015」優秀賞 : 野口 友里恵
「渋谷駅桜丘口地区再開発計画デザイン･アートワーク アイディアコンペティション」
佳作 : 滝川 寛明
「キッチン空間アイデアコンテスト」奨励賞 : 石井 陽

■ 2014 年
「THE PRIZE FOR EMERGING ARCHITECTS」増田 信吾
「Restaurant & Bar Design Awards 2014」大賞 : 小坂 竜 (A.N.D.)
「住宅課題賞 2014」優秀賞 3 等 : 池川 健太
「関東学生景観デザインコンペティション」優秀賞 : 小笠原 智美
「第 27 回日経ニューオフィス賞」関東ニューオフィス奨励賞 : 藤田 修司
「JCD デザインアワード 2014」金賞 : 増田 信吾
「JCD デザインアワード 2014」銀賞・新人賞、「DSA 空間デザイン賞 2014」
山倉礼士賞、「SDA アワード 2014」入賞 : 山本 大介
「JIA 第 23 回東京都学生卒業設計コンクール 2014」鈴木賞、「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2014」竹内賞 : 井上 岳・大重 雄暉・清水 太幹
「第 3 回蕨賞 学生アイデアコンペティション」佳作 : 石井 陽
「Portfolio Review 2014」入賞 : 池川 健太
「第 14 回卒業設計コンクール」特別審査員賞 : 荒井 卓

THE PRIZE FOR EMERGING ARCHITECTS 受賞「躯体の窓」増田信吾 + 大坪克亘

2018 年度 建築学科 入試情報

一般入試 募集 70 名

一般方式
募集 40 名
本学独自の学科･専門試験

センター A 方式
募集 15 名
大学入試センター試験
＋
本学独自の専門試験

センター B 方式
募集 15 名
大学入試センター試験のみ

学科試験
・国語　100 点
・外国語　100 点※1

本学指定の大学入試センター試験の教科・科目※2

センター A 方式
・国語 / 外国語 / 数学
　のうち1科目選択 100 点
・選択科目 100 点

センター B 方式
・外国語　100 点
・国語 / 数学
　のうち1科目選択 100 点
・選択科目 100 点

専門試験
・鉛筆デッサン / 数学
　どちらか 1 科目選択　200 点

公募制推薦入試 募集 10 名

■自己推薦方式
(学校長推薦不要・評定平均値指定なし)
自己推薦調書による第一次審査と、表現力テスト＋グループ面接による第二次審査で、建築学科で学ぼうとする関心の高さを主眼として選抜します。
出願に先立って希望者には「事前面談」を実施します。
■出願可能年齢
2018年4月1日時点で満28歳以下の者
■出願期間
2017(平成 29) 年 10 月 13 日 (金) から 10 月 25 日 (水) まで
(web 出願後郵送受付・消印有効)

大学院入試 造形研究科修士課程 デザイン専攻建築コース

■選考方法
小論文 (英語含む)
プレゼンテーション
面接

■提出作品
1. 近作 1 点
（プレゼンテーションで使用する模型・パネル・デジタルメディア※3 を任意に 1 つ以上選択）
2. ポートフォリオ（近作 3 点以上）または論文

※1　フランス語を選択する場合は、大学入試センター試験で受験
※2　本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目の詳細は武蔵野美術大学ウェブサイトをご覧ください
※3　ファイル形式は、jpg/pdf/ppt、動画は mov とする。提出方法は事前に確認のこと (arc@musabi.ac.jp)

学部卒業後に取得可能な資格

・一級建築士受験資格（2 年以上の実務経験が必要）
・二級建築士受験資格（実務経験の必要なし）
・木造建築士受験資格（実務経験の必要なし）
・学芸員（別途、科目履修が必要となります）

※大学院は建築士試験の大学院における実務経験要件に対応しています。
　大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数 1 年または 2 年が認定されます。
　詳しくは研究室にお問い合わせください。
※本学科には教職課程は設置されていません。

入学試験に関する情報・お問い合わせ

武蔵野美術大学　www.musabi.ac.jp
入学センター　tel : 042-342-6995（月 - 土 / 9:00 ～ 16:30）

武蔵野美術大学建築学科　学科紹介 2018
2017 年 6 月 10 日発行
発行：武蔵野美術大学建築学科研究室
〒 187-8505 東京都小平市小川町 1-736
tel : 042-342-6067　fax : 042-344-1599
mail : arc@musabi.ac.jp
www.arc.musabi.ac.jp
facebook : www.facebook.com/arc.musabi

監修：武蔵野美術大学建築学科研究室
編集・デザイン：入江 剛史
写真：村松 聡、建築学科研究室
印刷：株式会社アトミ
表紙作品：山田 陽平「品川駅改造計画 - 都市を異化する -」
(2016 年度卒業制作　金賞・優秀賞)

MAU Architecture